

第一章活用事例

中学校版「心みつめて」 p.3
「信じてと言いつとは…」

中心資料

小・中学校 東京都道徳教育郷土資料集 (第4集)
平成二十二年三月 東京都教育委員会 「歴代横綱の碑」

【主題名】 個性の伸長

- 1-⑤ 「自分を見詰め、自己の向上を図ることも」、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。

【ねらい】 自己を見詰め、自分のよさを見つけ、個性を伸ばして自己実現する意欲を育てる。

《ねらいとする道徳的価値》について《中学生の時期は、自分への理解が深まり将来の生き方に対する関心も高まってきます。一方で、むやみに他人と自分を比較して悩んだり自分の欠点ばかりを見てしまったりする場面も見られます。自分という存在がかけがえのないものであることに気付かせ、自分を認め、励まし、積極的に「自分らしさ」を磨いていこうとする姿勢を身に付けさせることが大切です。》

導入



「知っている相撲の決まり手を挙げてみよう。」

○相撲についての話題を取り上げて、資料への導入を図る。

*自分が所属する部活動を選択したときの理由を発表させることも考えられる。

○教師が「歴代横綱の碑」を範読する。



「雄介が相撲部への入部をためらっているのは、なぜだろうか。」

○友達のからかいを気にしたり、一回戦で負けてしまっって自分に自信がもてない雄介に着目させる。また、雄介が、自分はどうかしたいのかを考えていない点にも気付かせる。



「どの横綱にも自分のよさを最大限生かした決まり手がある。『という言葉』を聞き、雄介はどのようなことを考えたのだろうか。」

○「断言する横田さんの言葉には重みがありました。」の部分に着目させ、この言葉から雄介が何を受け止めたかを考えさせる。

中心発問



「自分のよさとは、もっと自信をもつていい。』という祖父の言葉は、雄介の心にどのように響いたのだろうか。」

○祖父の言葉をきっかけとした雄介の自問自答に着目させ、自分を見つめ、自分のよさを見付けることにどのような意味があるのかを考えさせる。

○「吾日に三たび省みる」という祖父の言葉に着目させ、「心みつめて」p.8の「先人のことは」なども参照させながら、「もう迷いはありません」と言い切る雄介へと変化していく様子を捉えさせる。

《評価》 雄介が、自己を見つめるとともに自分のよさを見つけて個性を伸ばしていこうとしていることに気付けたか。



「自分らしさについて考えてみよう。」

○「心みつめて」p.129「みんなが、かけがえのない自分をもっている。…」に記入させる。

○「心みつめて」p.3の「信じてと言いつとは…」を紹介し、自分のよさを見つけ、個性を伸ばそうとする意欲を喚起する。

板書例

歴代横綱の碑

相撲の決まり手

- ・突き出し
- ・寄り切り
- ・押し出し
- ・上手なげ
- など・

相撲の写真を掲示する。

雄介が相撲部への入部をためらっているのは、なぜだろうか。

- 和馬に冷やかされるのがいやだから。
- この前の試合で一回戦で負けてしまったから
- 自分が本当にやりたいことを見つけれないから。

「どの横綱にも自分のよさを最大限に生かした決まり手がある。」という言葉聞き、雄介はどのようなことを考えただろうか。

- 自分のよさを生かすとはどういうことだろう。
- 小学生のときはあれほど努力してきたのに、どうして今は、相撲に前向きになれないのだろう。
- 自分には横綱のような決まり手なんてないんだ。

「自分のよさには、もっと自信をもつていい。」という祖父の言葉は、雄介の心にどのように響いただろうか。

- 横綱たちが試練に打ち勝ち、自分に自信と誇りをもったように、自分のよさを大切にしたい。
- これまで本気でがんばってきた相撲を、友達のを気にしてやめてしまうのはもったいない。
- 周りに惑わされず、自分のよさを発揮したい。
- 相撲という場で自分のよさをもっと磨いていきたい。

自分らしさについて考えてみよう。

自分のこんなところを・・・

このように伸ばしていきたい。

「信じてと言いつとは…」の言葉

《評価》 自己を見つめ、自分のよさを見つけ、個性を伸ばしていこうとする意欲を育てることができたか。

終末

展開